

上久世遺跡・上久世城跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
二〇一六―一五

上久世遺跡・上久世城跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人
京都市埋蔵文化財研究所

上久世遺跡・上久世城跡

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、久世西小学校特別教室・プール棟増築工事に伴う上久世遺跡・上久世城跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

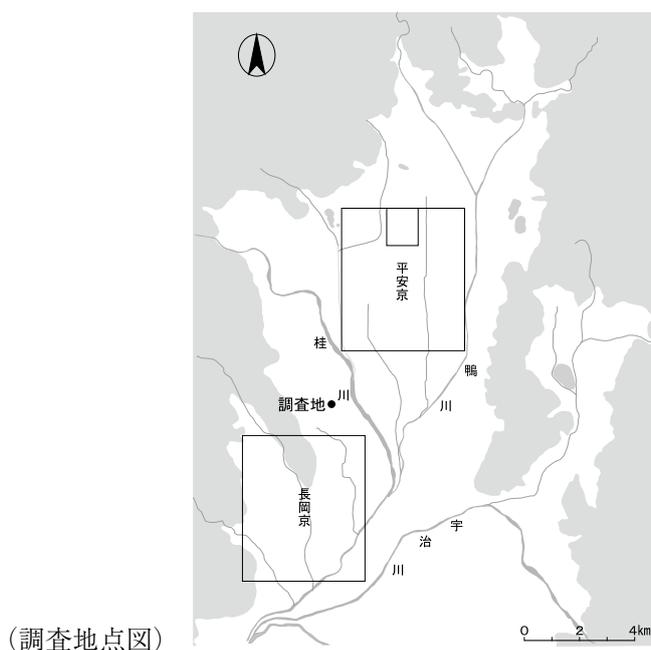
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成29年6月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- | | |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名 | 上久世遺跡・上久世城跡（文化財保護課番号 16 S 076） |
| 2 調査所在地 | 京都市南区久世上久世町405番地他 |
| 3 委 託 者 | 京都市 代表者 京都市長 門川大作 |
| 4 調査期間 | 2017年1月23日～2017年2月16日 |
| 5 調査面積 | 300㎡ |
| 6 調査担当者 | 関広尚世 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「川島」・「吉祥院」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 11 遺構番号 | 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。 |
| 12 遺物番号 | 通し番号を付し、写真番号も同一とした。 |
| 13 本書作成 | 関広尚世 |
| 14 備 考 | 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。 |



(調査地点図)

目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	1
2. 位置と環境	3
(1) 周辺の調査	3
3. 遺 構	5
(1) 基本層序	5
(2) 遺 構	5
4. 遺 物	7
(1) 土器類	7
(2) 木製品	8
5. ま と め	9

図 版 目 次

図版1 遺構・遺物	1 調査区全景（北から）
	2 出土土器

挿 図 目 次

図1 調査位置図（1：2,500）	1
図2 調査区配置図（1：500）	2
図3 調査前全景（北西から）	2
図4 作業風景（北から）	2
図5 小学生現場見学風景	3
図6 周辺調査位置図（1：2,500）	4
図7 調査区平面図（1：200）	5
図8 調査区東壁・南壁断面図（1：100）	6

図9	出土土器実測図（1：4）	7
図10	出土須恵器杯（5）	8
図11	出土木製品実測図（1：4）	8

表 目 次

表1	遺構概要表	6
表2	遺物概要表	7

上久世遺跡・上久世城跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯 (図1)

調査地は、京都市南区久世上久世町405番地他、久世西小学校内に位置する。当地に京都市により久世西小学校特別教室・プール棟増築工事が計画された。京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」という）による試掘調査の結果、中世の遺構の存在が想定されたため、京都市より公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が委託を受けて、発掘調査を実施することとなった。

(2) 調査の経過 (図2～5)

調査区は、文化財保護課の指導により東西15m、南北20mに設定した。面積は300㎡である。調査は2017年1月23日から開始し、重機を用いて小学校グラウンド整地土および耕土の掘削を行った。この後に遺構の検出を行ったが確認できなかったため、調査区東端と南端を幅約1mで断ち割り、下層堆積の確認を行ったところ、調査区全体にわたって自然流路の堆積であることが判明した。こののち、実測図・写真による記録作業を行い、さらに重機を用いて調査区南西隅を地表約3

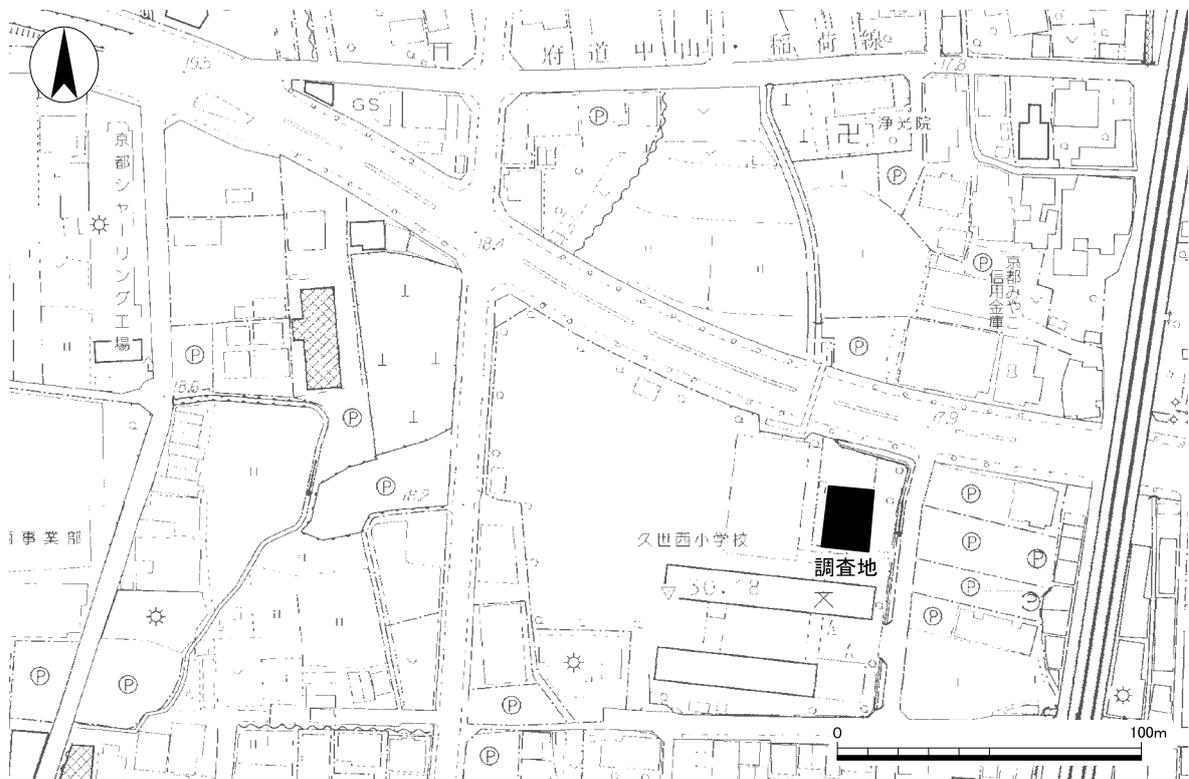


図1 調査位置図 (1 : 2,500)

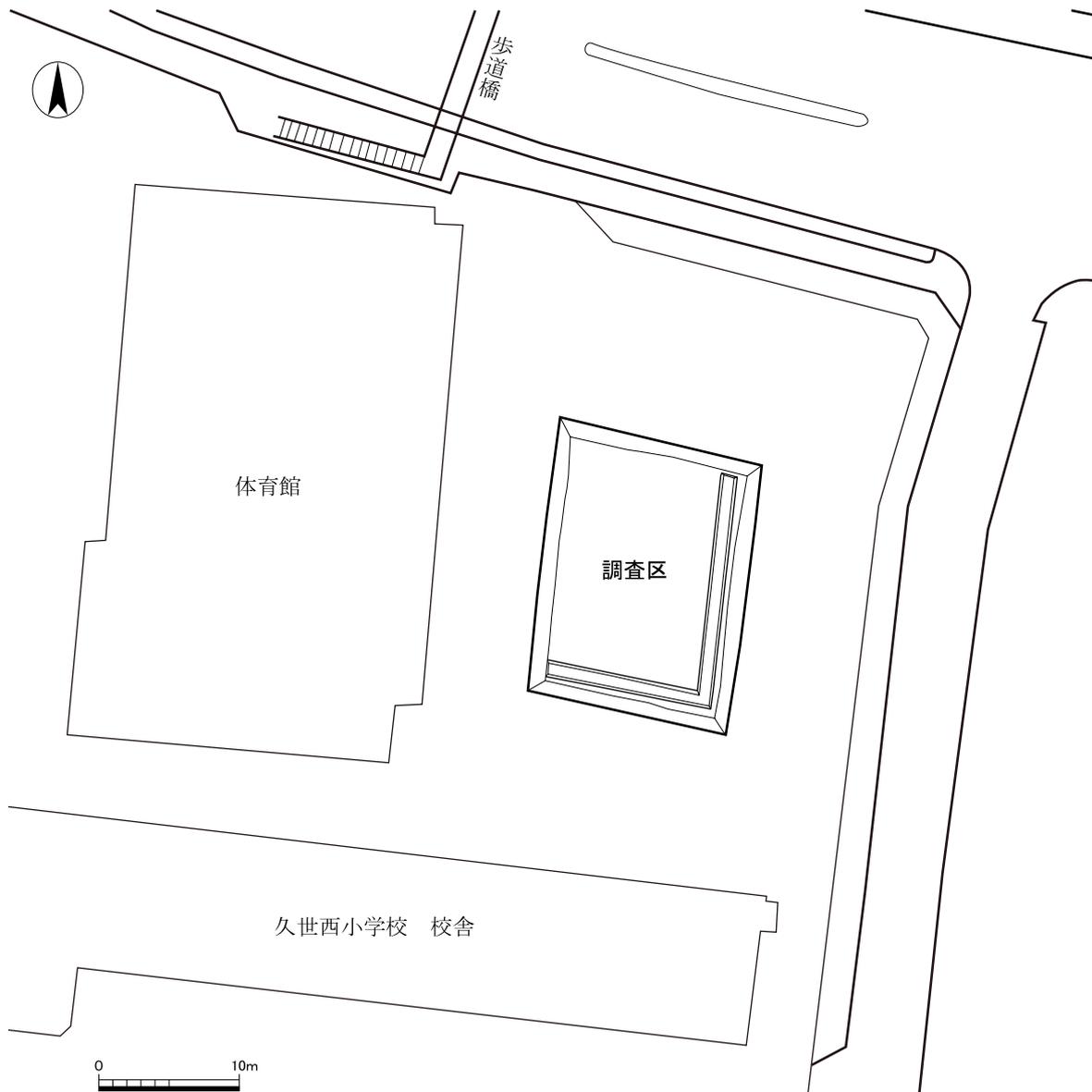


図2 調査区配置図 (1 : 500)



図3 調査前全景 (北西から)



図4 作業風景 (北から)

m下まで掘り下げたが、流路が続いていた。

なお、適宜、文化財保護課の臨検を受け、本調査の検証委員である龍谷大学の國下多美樹教授と立命館大学の木立雅朗教授の視察を受けた。

また、調査期間中の2月6・7日には、久世西小学校児童約200名を対象に発掘調査および調査状況の説明会を行った。



図5 小学生現場見学風景

2. 位置と環境

(1) 周辺の調査 (図6)

調査地周辺には現在も条里制地割が歴史的景観として残されており、乙訓郡久世里としてその名をとどめている。鎌倉時代には北条得宗家の直轄領、室町時代以降は東寺領荘園となっている¹⁾。

調査区近隣では、昭和49・50年度の道路建設に伴う試掘・発掘調査²⁾、昭和50・51年度の小学校建設に伴う試掘・発掘調査³⁾、昭和59年度の道路建設に伴う発掘調査⁴⁾、昭和62年度のマンション建設に伴う発掘調査⁵⁾、平成5年度のマンション建設に伴う発掘調査⁶⁾が実施されており、弥生時代から中世にかけての集落跡が確認され、鎌倉時代から室町時代にかけての溝・建物群・井戸・土坑などを検出している。また、昭和58・59年度には久世上久世町一帯で公共下水道管理設工事に伴う広域立会調査が行われ、弥生時代から中世の遺構を検出している⁷⁾。これらのことから、本調査でも同じ時期と性格の遺構の検出が予想された。

註

- 1) 中山修一「付、上久世の略史」『上久世遺跡発掘調査報告』六勝寺調査会 1976年
- 2) 『上久世遺跡発掘調査報告』六勝寺調査会 1976年
- 3) 『上久世城の内遺跡発掘調査中間報告』六勝寺調査会・上久世城の内遺跡発掘調査団 1977年
堀内明博・百瀬正恒・吉村正親「上久世城ノ内遺跡」『佛教芸術』115号 1977年
- 4) 久世康博・上村和直「上久世遺跡」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1987年
- 5) 吉崎 伸「上久世遺跡」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 6) 上村和直・出口 勲「上久世遺跡」『平成5年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 7) 吉村正親「上久世遺跡」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1987年

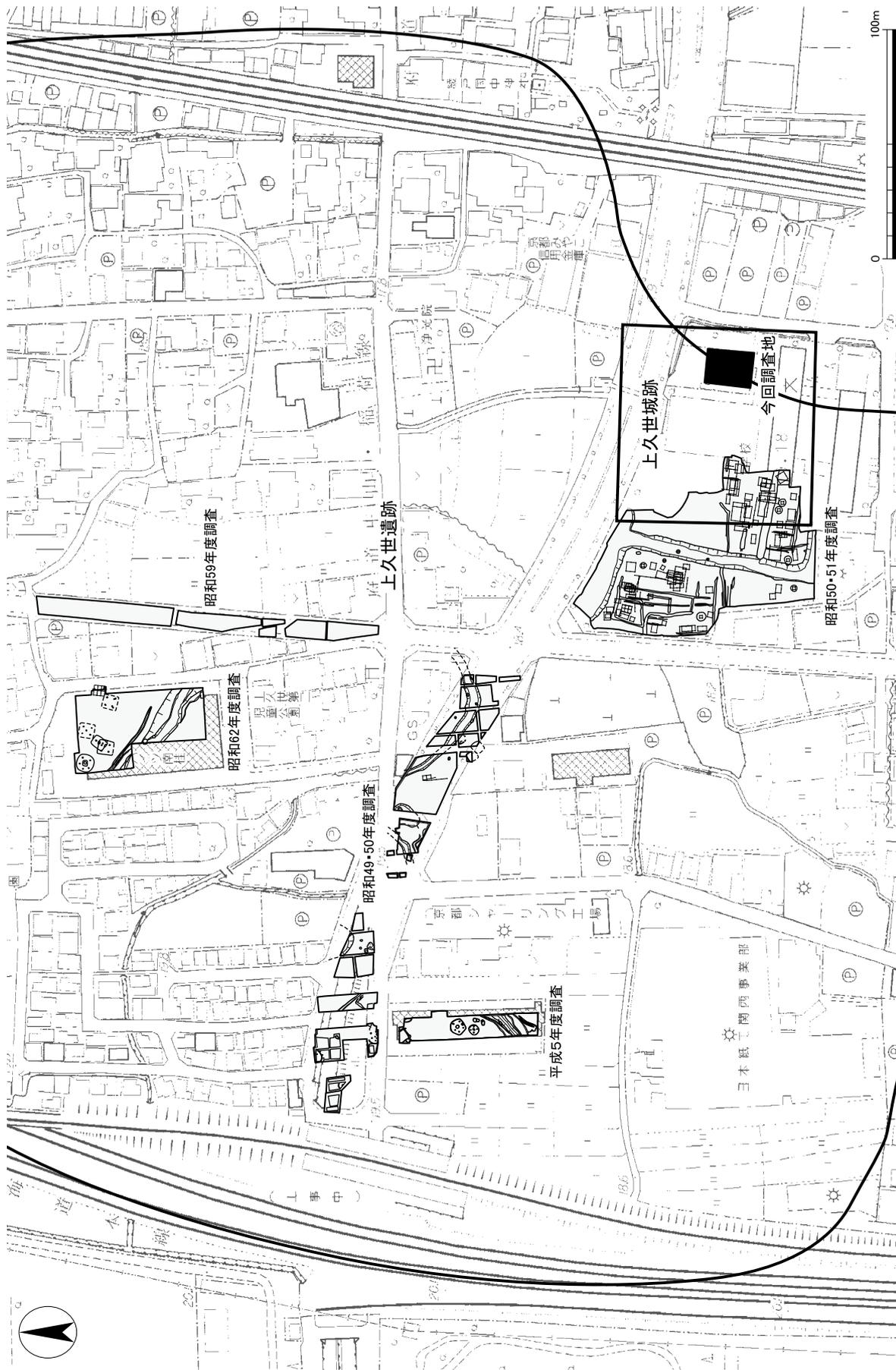


图6 周辺調査位置图 (1 : 2,500)

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図8)

基本層序は、地表下約0.4mまで現代の整地盛土層、無遺物の暗灰粘質土層（厚さ約0.2m）、中世以降の水田層2層（厚さ0.6～0.7m）、滞水により堆積したシルト層で（厚さ0.2～0.3m）、その下層は、弥生時代から中世の遺物を含む流路の堆積であった。

(2) 遺 構 (図7)

オリーブ黒色シルト（5層）上面で精査を行い、いずれも全面が自然流路の堆積であることを確認した。この流路堆積は厚さ2.2m以上あり、現地表面から約3m下では湧水を確認した。流路堆積土から中世の土器類が出土しており、調査区は少なくとも中世以降に形成された自然流路内にあるといえる。

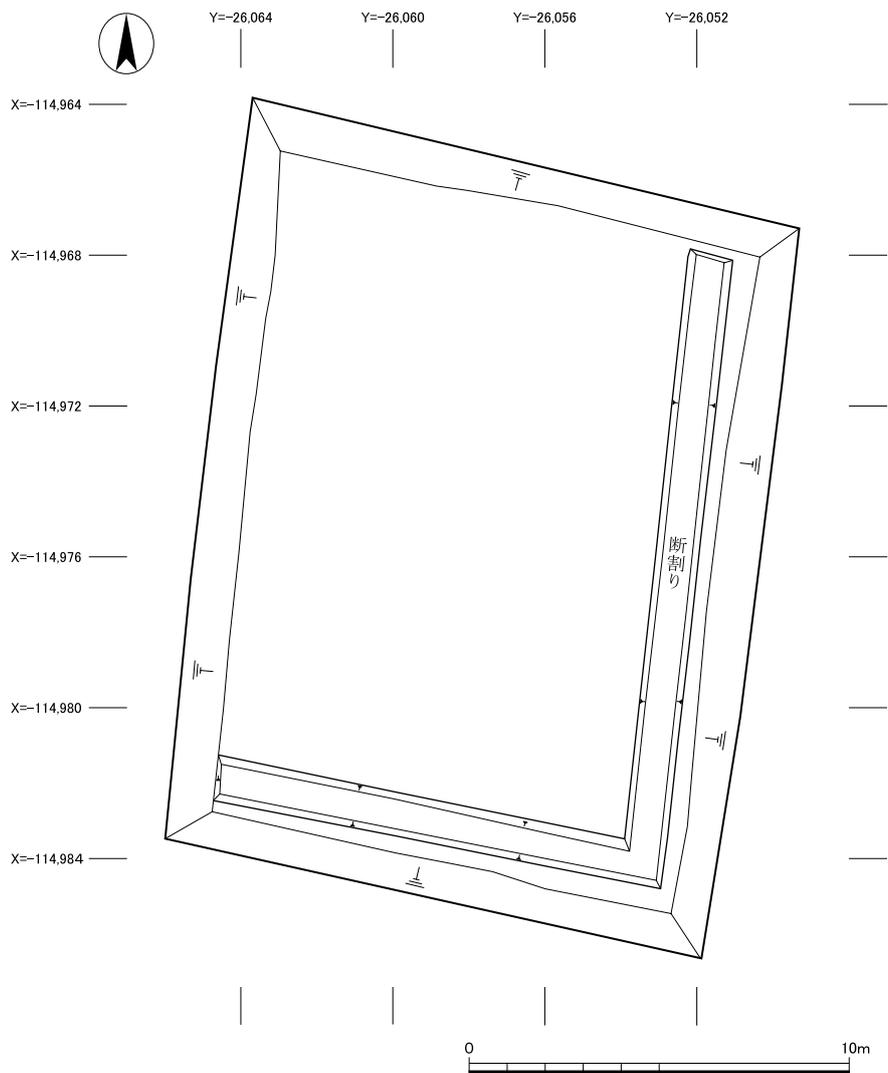
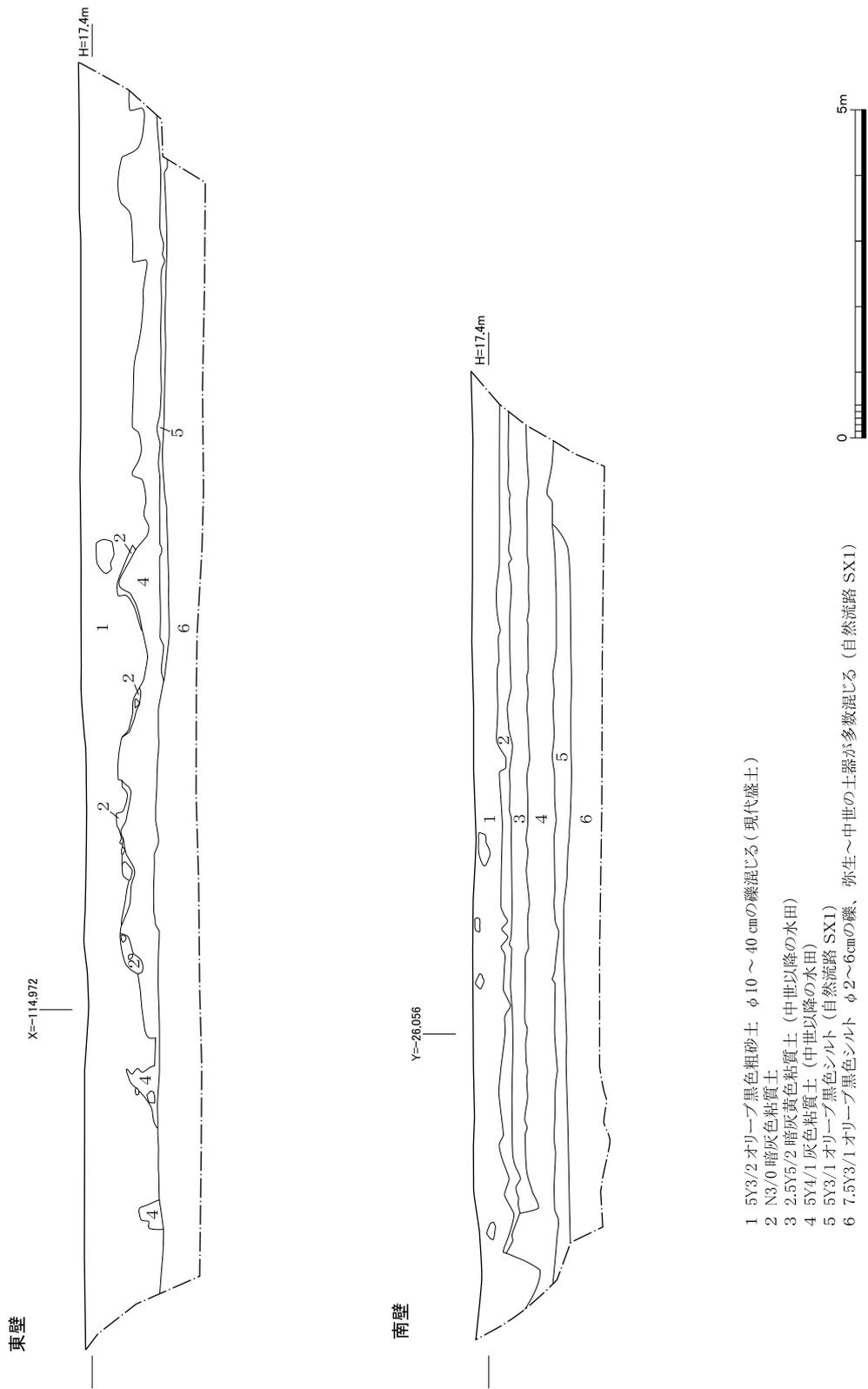


図7 調査区平面図（1：200）



- 1 5Y3/2 オリーブ黒色粗砂土 φ 10 ~ 40 cmの礫混じる (現代盛土)
- 2 N3/0 暗灰色粘質土
- 3 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 (中世以降の水田)
- 4 5Y4/1 灰色粘質土 (中世以降の水田)
- 5 5Y3/1 オリーブ黒色シルト (自然流路 SX1)
- 6 7.5Y3/1 オリーブ黒色シルト φ 2~6cmの礫、弥生~中世の土器が多数混じる (自然流路 SX1)

図8 調査区東壁・南壁断面図 (1 : 100)

表1 遺構概要表

時代	遺構	備考
中世	自然流路(SX1)	

4. 遺物

出土した遺物は、土器・陶磁器類、木製品であり、小片が多い。ただし、土器類の器面はほとんど磨滅しておらず、近隣から流れ込んだものと考えられる。

(1) 土器類 (図9・10)

1～8はいずれも南北・東西断割から出土した。

1は弥生土器壺の口縁部である。復元口径は19.8cm、残存高5.1cmであり、内面にはミガキ痕が残る。胎土に径1～4mmの長石・チャート・石英・雲母を多く含み、橙色を呈する。

2は土師器小型丸底壺である。復元口径は13.0cm、残存高は4.6cmである。外面は磨滅が激しい。胎土に長石・チャート・石英を含み、にぶい橙色を呈する。

3～5は須恵器杯身である。5は口径12.4cm、器高4.6cmである。胎土に長石・チャート・石英を含み、灰色を呈する。4は復元径が14.0cm前後、器高が3.0cm前後である。底部外面にはロクロケズリが施される。胎土に長石・チャート・石英を含み、灰色を呈する。

6は白磁杯である。復元口径13.8cm、残存高は2.7cmである。胎土は明オリーブ灰色を呈する。

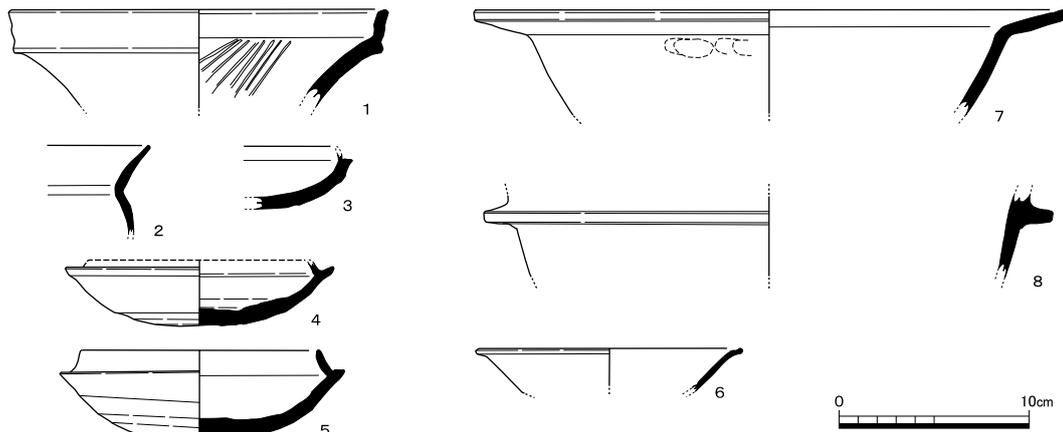


図9 出土土器実測図 (1:4)

表2 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
弥生時代	弥生土器		弥生土器 1点		
古墳時代	須恵器、土師器		須恵器 3点、土師器 1点		
中世以降	土師器、白磁、木製品		土師器 2点、白磁 1点、木製品 1点		
合計		3箱	9点 (2箱)	0箱	1箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、Aランクの遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

7は土師器鍋である。復元口径は30.9cm、残存高5.6cmで、頸部にわずかに指頭圧痕が認められる。胎土に長石・チャート・石英・雲母を多く含み、にぶい黄橙色を呈する。

8は土師器羽釜である。復元最大径約30.0cm、残存高4.4cmである。胎土に径1～3mmの長石・酸化物を多く含み、浅黄色を呈する。



図10 出土須恵器杯(5)

(2) 木製品 (図11)

9は曲物の蓋ないし底部である。東西断割から出土し、最大径18.5cm、厚さ0.5cmである。中央部に孔がある。断面の形状から、片側からの穿孔である。

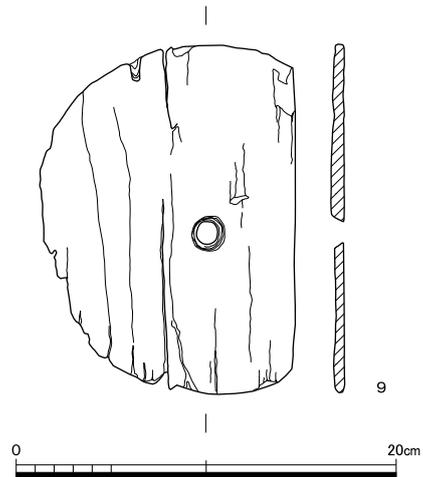


図11 出土木製品実測図(1:4)

5. まとめ

昭和59年度までの調査で、調査区周辺には褐色泥土層からなる微高地と流路関係土層があることが確認されていた¹⁾。また、昭和50・51年度の調査では、久世西小学校体育館およびグラウンドの下層で、中世の掘立柱建物跡や井戸が確認されており²⁾、この微高地に中世城館が営まれていたことが明らかになっていた³⁾。今回は、この城館の一部ないし、集落を検出する目的で実施したが、調査の結果、上久世遺跡および上久世城跡の東側には弥生時代から中世の居住域縁辺を流れる自然流路が存在していたことが判明し、昭和59年度調査時に想定された流路関係土層の分布を検証することができた。

註

- 1) 吉村正親「上久世遺跡」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1987年
- 2) 『上久世城の内遺跡発掘調査中間報告』六勝寺調査会・上久世城の内遺跡発掘調査団 1977年
堀内明博・百瀬正恒・吉村正親「上久世城ノ内遺跡」『佛教芸術』115号 1977年
- 3) 「156 上久世城跡」『京都府中世城館跡調査報告書』第3冊 京都府教育委員会 2015年

圖 版



1 調査区全景（北から）



2 出土土器

報 告 書 抄 録

ふりがな	かみくぜいせき・かみくぜじょうあと							
書名	上久世遺跡・上久世城跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2016-15							
編著者名	関広尚世							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2017年6月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かみくぜいせき 上久世遺跡	きょうとし みなみく 京都市南区 くぜかみくぜじょう 久世上久世町	26100	761	34度 57分 48秒	135度 42分 53秒	2017年1月 23日～2017 年2月16日	300㎡	小学校特 別教室・ プール棟 増築工事
かみくぜじょうあと 上久世城跡	405番地他		763					
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
上久世遺跡	集落跡	中世	自然流路	弥生土器、須恵器、土 師器、瓦器、陶磁器、 木製品		調査区全体が流路 内に位置する。		
上久世城跡	平城跡							

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2016-15

上久世遺跡・上久世城跡

発行日 2017年6月30日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961